今月の野菜

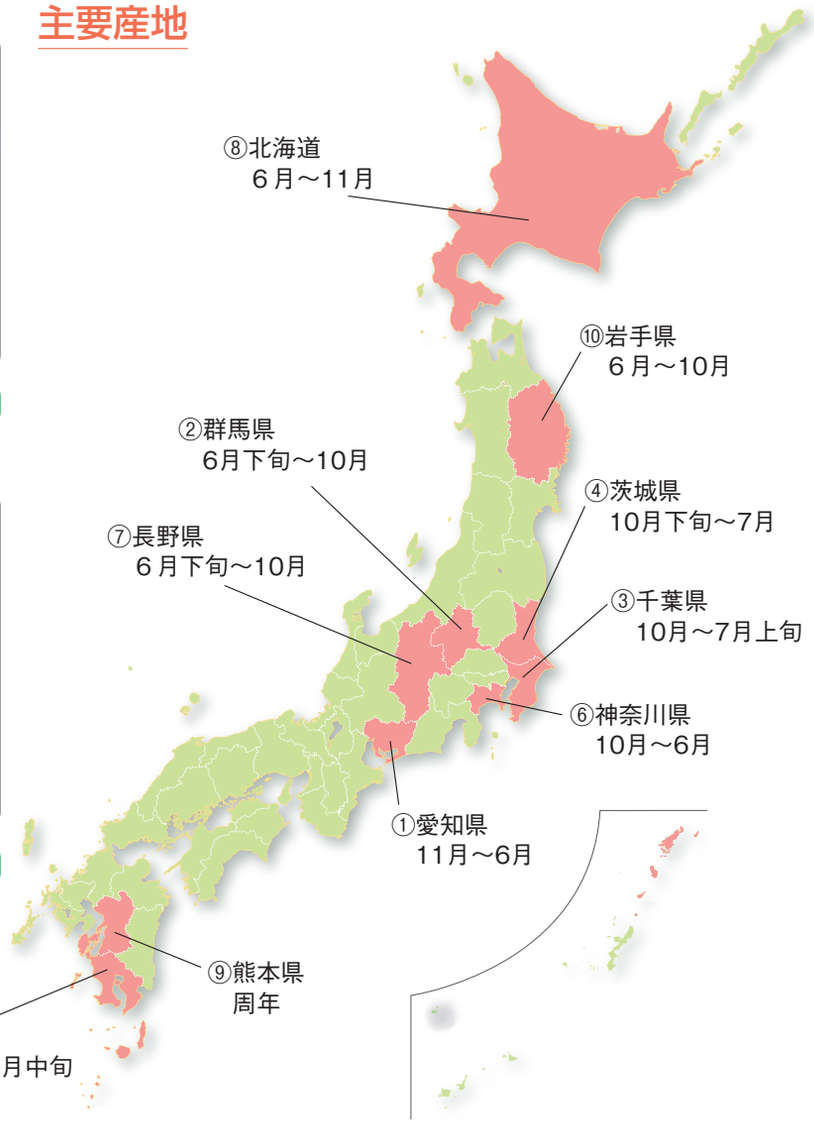
キャベツの需給動向

調査情報部

春キャベツ

芽キャベツ

主要産地



資料：農林水産省「令和２年産野菜生産出荷統計」
注：図中の番号は収穫量の多い順番、期間は主な出荷期間を表している。

キャベツの原産地はヨーロッパの地中海・大西洋沿岸で、もともとの野生種はケールのような非結球タイプのものであった。日本に食用として渡来したのは江戸時代末期だが、初めはもっぱら観賞用で、明治末から大正時代にかけて「とんかつ」が流行するにつれ、生食が急速に普及した。

比較的冷涼な気候を好むことから、南から北へ、平地から高原へと各産地をつなぐリレー出荷や作型の多様化により、周年供給体制が確立している。出荷時期によって大きく春キャベツ、夏秋キャベツ、冬キャベツに分類される。春キャベツは、千葉県や神奈川県などの海洋性気候の暖かい地域が主産地であり、柔らかく甘みがあるのが特徴で、サラダや即席漬けなどにも向く。

キャベツに由来して命名されたビタミン様物質キャベジン（ビタミンU）を含む。キャベジンは胃の粘膜を正常に保つ効果があることから、胃腸障害に有効な成分と考えられている。また、葉の付け根のわき芽が結球した芽キャベツは、ビタミンCを豊富に含み、その含有量はキャベツの４倍近くある。

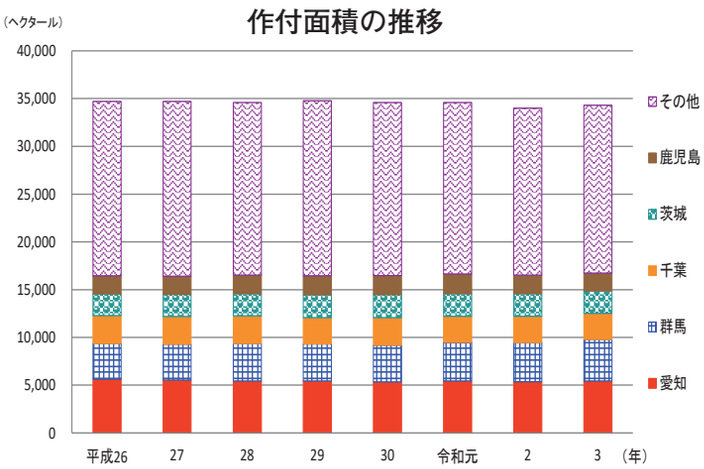
作付面積・出荷量・単収の推移

令和３年の作付面積は、３万4300ヘクタール（前年比100.9%）と、前年よりわずかに増加した。

上位５県では、

- 愛知県　5440ヘクタール(同 101.3%)
- 群馬県　4340ヘクタール(同 106.4%)
- 千葉県　2730ヘクタール(同　98.2%)
- 茨城県　2370ヘクタール(同 100.0%)
- 鹿児島県1860ヘクタール(同　96.9%)

となっている。



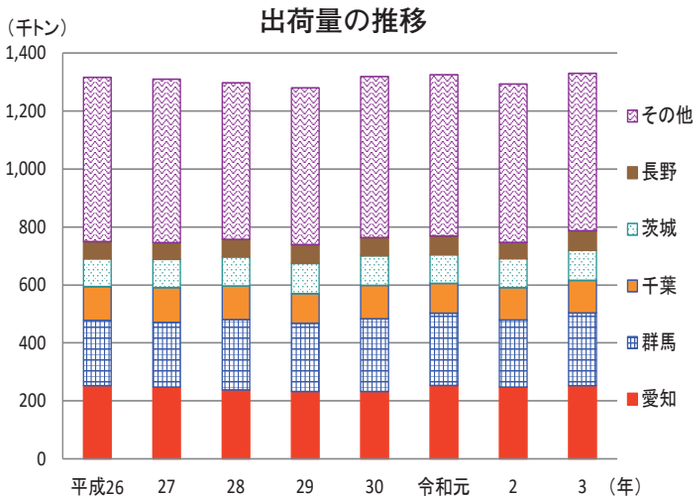
資料：農林水産省「野菜生産出荷統計（令和３年産）」

令和３年の出荷量は、133万トン（前年比102.9%）と、前年よりわずかに増加した。

上位５府県では、

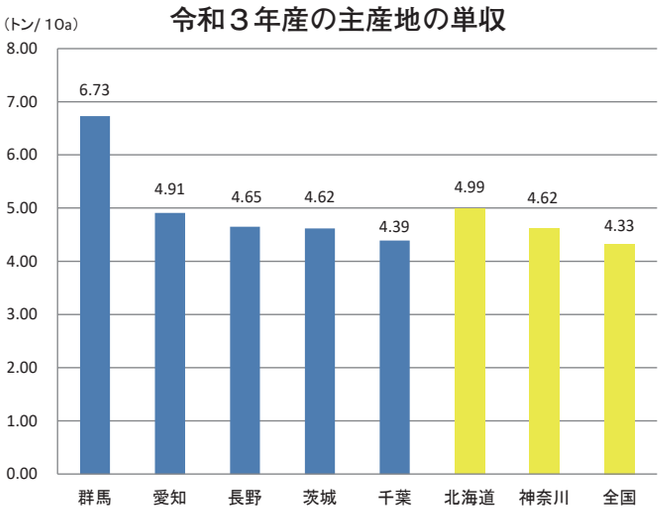
- 愛知県　25万2200トン（同101.9%）
- 群馬県　25万1700トン（同108.6%）
- 千葉県　11万2300トン（同100.4%）
- 茨城県　10万3500トン（同103.7%）
- 長野県　6万7400トン（同119.7%）

となっている。



資料：農林水産省「野菜生産出荷統計（令和３年産）」

出荷量上位５県について、10アール当たりの収量を見ると、群馬県の6.73トンが最も多く、次いで愛知県の4.91トン、長野県の4.65トンと続いている。その他の都道府県で多いのは、北海道の4.99トン、神奈川の4.62トンであり、全国平均は4.33トンとなっている。



資料：農林水産省「野菜生産出荷統計（令和３年産）」
注：黄色は、出荷量上位５県以外で単収が多い２道県および全国平均。

作付けされている主な品種等

主なキャベツの品種は、春系（春玉）と冬系（寒玉）に大別される。かつては、巻きの堅い冬系（寒玉）が流通の大半を占めたが、その後、生のままでも軟らかい春系（春玉）が好まれ、需要が拡大した。最近は、加工・業務用需要が増加しており、外食・中食産業の基本食材として使われることが多く、巻きが固く歩留まりの良い冬系（寒玉）の生産量が増加している。

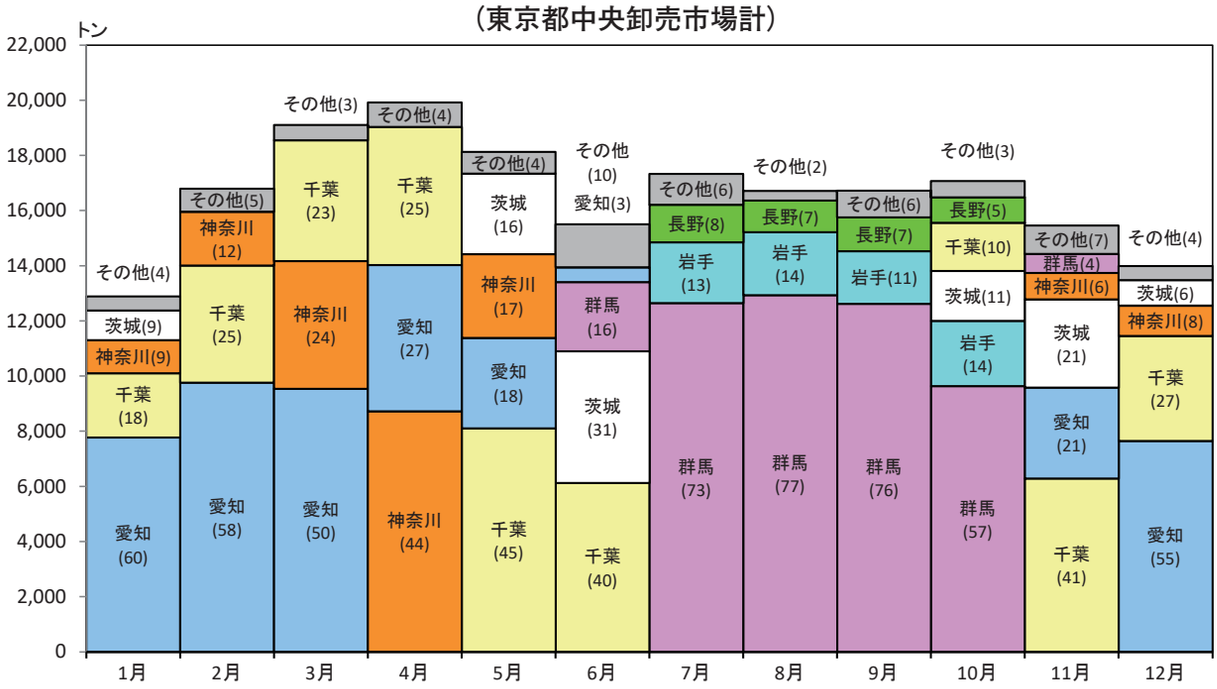
都道府県名	主な品種
群馬県	初恋、青春、青琳、愛輝、岳陽
愛知県	そらと、冬のぼり、冬藍、ゆいな、春岬、きよな
千葉県	金春、春系３０５号、初恋、いろどり
茨城県	初恋、あさしお、輝吉、きよはる、みくに
神奈川県	金系２０１、中早生２号、ＹＲあおば、春春丸、金春

資料：関係者聞き取りにより農畜産業振興機構作成

東京都・大阪中央卸売市場における月別県別入荷実績

東京都中央卸売市場の月別入荷実績（令和３年）を見ると、年間を通して平準化されており、産地リレーによって周年供給されていることがわかる。４～６月は神奈川産や千葉産や茨城産など、関東近在産地からの入荷が多い。７～10月は、各月とも群馬産の入荷が約60％以上を占めている。11月～翌３月は、愛知産および千葉産が主体となっている。

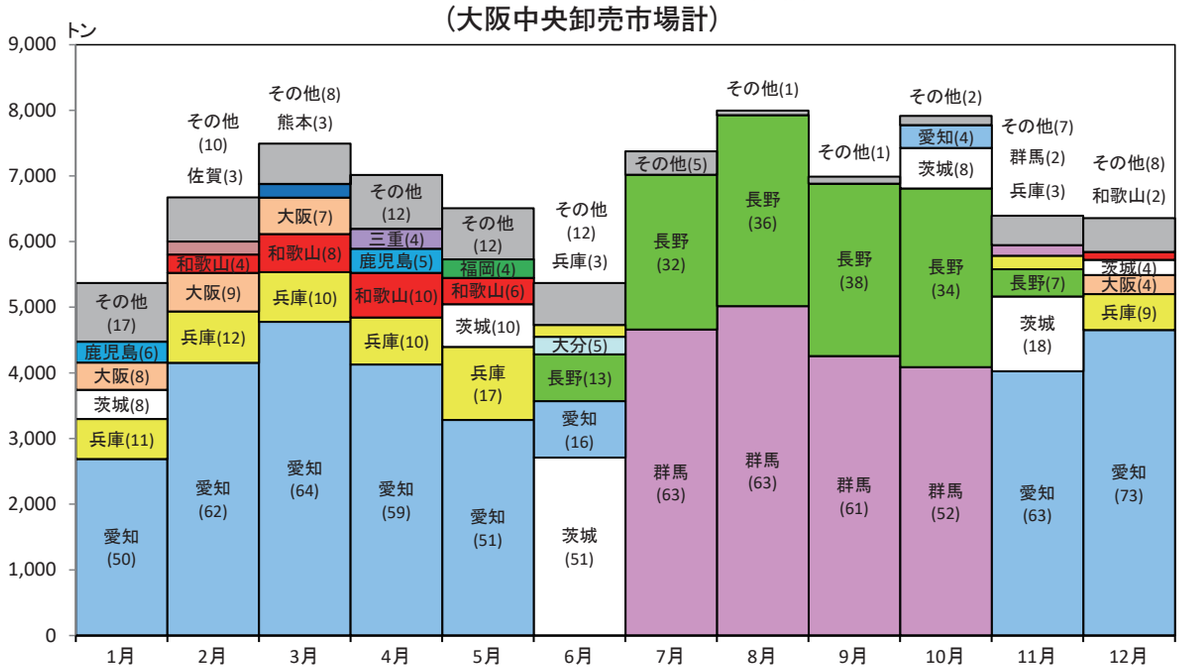
令和３年　キャベツ類の月別入荷実績
（東京都中央卸売市場計）



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：令和３年東京都中央卸売市場年報）
注：（ ）内の数値は、月別入荷量全体に占める割合（％）である。

大阪中央卸売市場の月別入荷実績（令和３年）を見ると、東京都中央卸売市場と同様に、産地リレーによって周年供給されていることがわかる。４～６月は愛知産および茨城産を中心に、兵庫産、和歌山産などの入荷もある。７～10月は群馬産および長野産で全入荷量の約90％以上を占める。11月～翌３月は愛知産を主体に、兵庫産や大阪産などが入荷している。

令和３年　キャベツの月別入荷実績
（大阪中央卸売市場計）

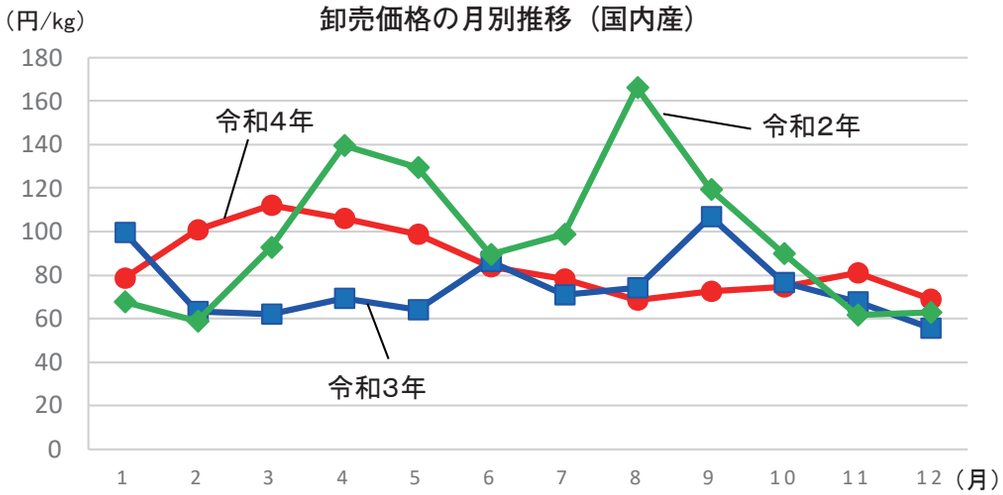


資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：令和３年大阪市・大阪府中央卸売市場年報）
注：（ ）内の数値は、月別入荷量全体に占める割合（％）である。

東京都中央卸売市場における価格の推移

東京都中央卸売市場におけるキャベツの価格（令和４年）は、１キログラム当たり69~112円（年平均86円）の幅で推移している。令和２年は、７月の記録的な長雨、日照不足などの影響で生育が不良となり８月に価格が急騰した。

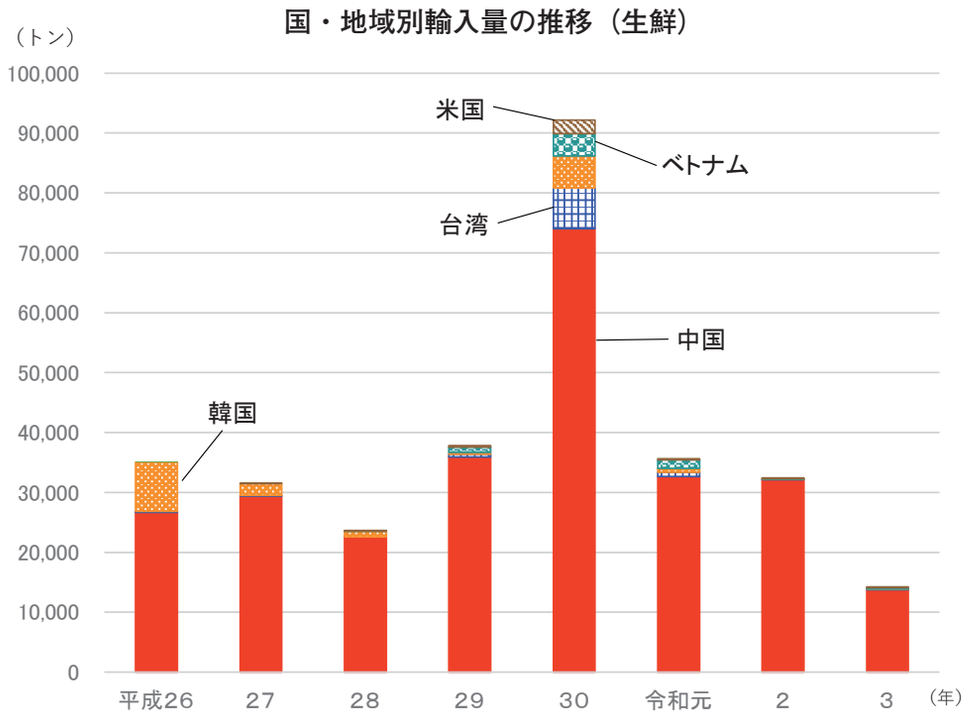
卸売価格の月別推移（国内産）



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：東京都中央卸売市場「市場月報」）

輸入量の推移

キャベツの輸入はほぼ生鮮品である。平成26年以降のキャベツ（生鮮）の輸入量を見ると、平成30年と令和３年を除き２万3000トンから３万8000トンの間で推移している。平成30年は、前年からの天候不良などにより国内産が品薄になり、輸入量が急増した。主な輸入先国は中国で、令和３年は96.8%を占める。中国産は周年輸入されているが、卸売市場にはほとんど入荷されず、多くは加工・業務用に直接仕向けられている。



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：財務省「貿易統計」）

消費の動向など

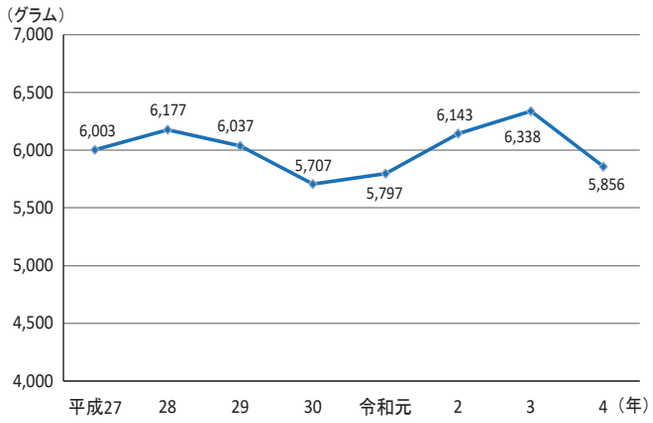
キャベツは野菜の中で最も購入量が多く、販売価格に関係なく安定している。１人当たりの年間購入量を見ると、平成27年以降は6000グラム前後で推移していたが、コロナ禍による家庭内消費の増加などにより、令和３年は6338グラムと過去10年間で最も多い。

小売価格（東京都区部）の動向を見ると、平成27年以降は１キログラム当たり200円前後で推移している。

キャベツに多く含まれるビタミンCやビタミンUは、水溶性のため、サラダや浅漬け、汁ごと食べられるスープや鍋物が効率的に摂取できる。

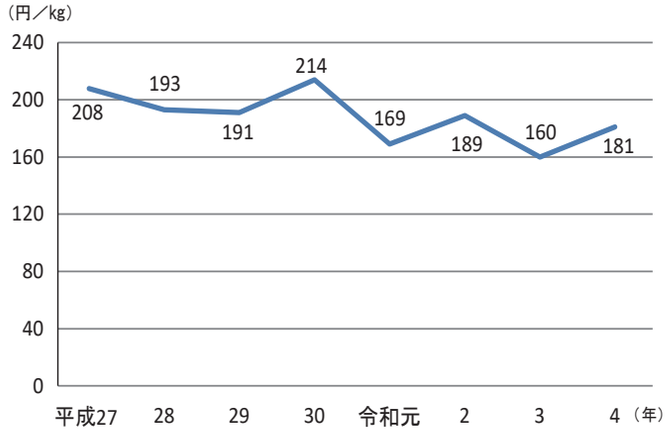
産地をリレーして栽培することで周年供給されるが、収穫の季節や産地によって品種や味が異なるため、それぞれの特徴を知って年間を通じておいしく食べたいものである。

１人当たり年間購入量の推移（キャベツ）



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：総務省「家計調査年報」）

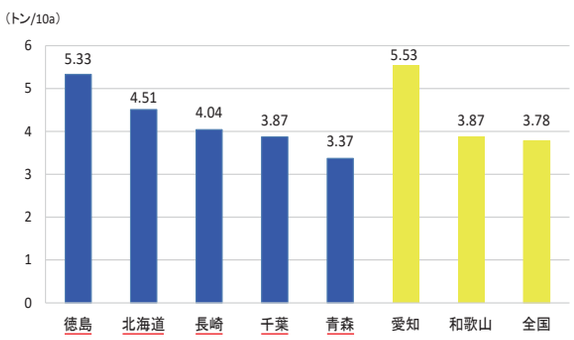
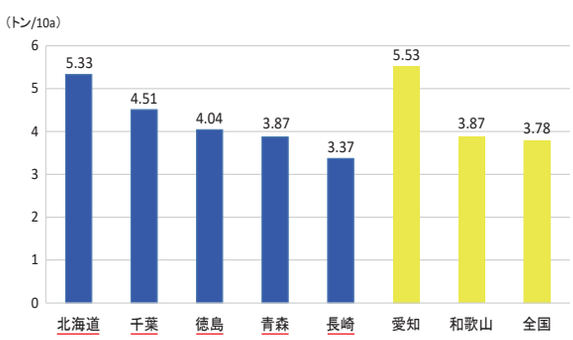
小売価格（東京都区部）の動向（キャベツ）



資料：農畜産業振興機構「ベジ探」（原資料：総務省「小売物価統計調査」）

◆お詫びと訂正

「野菜情報」の掲載内容に誤りがありました。
謹んでお詫び申し上げますと共に、以下の通り訂正いたします。

○**2023年2月号　今月の野菜　にんじんの需給動向**（29ページ 令和３年産の主産地の単収）

【正】	【誤】
出荷量上位５道県について、10アール当たりの収量を見ると、徳島県の5.33トンが最も多く、次いで北海道の4.51トン、長崎県の4.04トンと続いている。	出荷量上位５道県について、10アール当たりの収量を見ると、北海道の5.33トンが最も多く、次いで千葉県の4.51トン、徳島県の4.04トンと続いている。
令和３年産の主産地の単収	**令和３年産の主産地の単収**